

◎基本情報

事務事業名	広報なると・テレビ広報充実事業		担当部署	企画総務部 秘書広報課		
総合計画体系			根拠法令 計画など	なし		
基本政策(大項目)	4	おおきく躍動みんなで創るまちづくり	事業 期間	開始	昭和	26 年度
政策(中項目)	1	全員参加で創るまち なると			終期	未定
(小項目)		情報の共有化				
施策	4	情報の共有化の推進				
基本事業	1	広報活動の充実				

◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何)を対象にしているか	<input type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理 全市民						
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	紙面や動画を活用し、行政情報等をわかりやすく紹介するとともに、より多くの市民が見てくれるような広報紙及びテレビ広報を制作し、市政への関心や参画につなげる。						
事業計画	29年度に何を計画していたか	広報紙は平成28年度同様、カラーページの拡充を継続する。また、テレビ広報に関しては、新しい市の施策や周年記念などタイミングに合わせた番組作りに取り組む。また、広報モニターに若い世代の方に担っていただき多様な意見を抽出できるようにする。						
成果目標	事業目標の達成度合	指標名	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	単位
		広報モニターの肯定的評価割合	70.0	70.0	70.0	70.0	70.0	%

◎実施結果(DO)

事業実施内容	29年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	広報なるとでは、より正確かつ豊富な情報を市民の皆さんに提供するため、広報戦略プランやパブリシティマニュアルなどに沿ったルールを各課へ周知徹底するとともに、原稿締切日の徹底など各課へ協力を依頼した。テレビ広報では、市制施行70周年を記念した鳴門市の歴史を振り返るコーナー「鳴門70年のあゆみ」を立ち上げ、祝賀ムードをより高める番組作りを心掛けた。また、若い世代の声を紙面・番組に反映させるため、鳴門教育大学の学生2名を新任広報モニターとして就任していただいた。						
事業実施手法		<input type="checkbox"/> 市実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他						
指標名		28年度実績	29年度実績	30年度目標	31年度目標	32年度目標	単位	
活動指標 実施した事業の活動量を示す指標	1	広報紙による市政の特集回数	10	7	10	10	10	回
	2	テレビ広報で市長の施策紹介回数	3	2	3	3	3	回
成果指標 対象にどのような効果があったか示す指標	広報モニターの肯定的評価割合		85.4	84.8	-	-	-	%
	目標達成率(実績/目標)			121.1	-	-	-	%
今年度の進捗状況	計画どおり		事業全体の進捗状況			計画どおり		

(千円)

財源内訳	年度	区分	国	県	地方債	その他特定財源	一般財源	事業費計
	平成29年度	当初予算額	0	0	0	773	11,462	12,235
		補正予算額	0	0	0	0	0	0
		繰越予算額	0	0	0	0	0	0
		全体予算額	0	0	0	773	11,462	12,235
		決算額	0	0	0	728	11,322	12,050
		繰越額	0	0	0	0	0	0
		人件費	正規職員(7,234千円/人)	臨時職員(2,492千円/人)		総人件費		総事業費
		2.0	0.0		14,468		26,518	

事業費推移	年度	28年度決算	29年度決算	30年度	31年度	32年度
	事業費	11,854	12,050	12,811	12,811	12,811
	うち一般財源	11,080	11,322	12,083	12,083	12,083
	人件費	14,266	14,468	14,266	14,266	14,266
	総事業費	26,120	26,518	27,077	27,077	27,077

◎項目別評価(CHECK)

評価項目		評価値	所見欄
①活動に対する評価	有効性	A:有効性があった	市民と市政をつなぎ、生活に関わる不可欠な情報を提供する事業であるため、より有益でわかりやすい情報提供を心掛けた。今後もブラッシュアップし、評価向上に努める。
	効率性	A:効率的だった	さらなる効率化を進めるためには、職員の知識・スキルの向上が必要となるため、実務を通じて職員の資質向上を図った。
②成果に対する評価	指標名	広報モニターの肯定的評価割合	
	目標	70.0	%
	実績	84.8	%
	評価	A:目標を達成できた	
③総合的な評価		A	評価とする目標は達成したため、A評価とするが、今後も内容をより充実させ、一層の効率化を図れる可能性があるため市民や、広報モニターの評価を向上させるように努力する。

◎今後の方向性(ACTION)

課題	テレビ広報においては、平成25年から15日間隔で放送をしているが、間隔を短くするなどして、情報発信の拡大を検討する。また、放送する際のテロップ・デザインの改善など、より親しみを持っていただける番組づくりを心掛けていく。 広報なるとに関しては、各課からの掲載依頼が増加傾向にあり、現状の頁数では、対応が難しくなっている。テレビ・広報紙ともに、増ページ・放送時間の拡大はさらなる経費がかかることや、現状の人員の業務量の関係から十分な検討が必要である。 内容については広報モニター等市民の意見も聞きながら改善に努めたい。				
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	3
↓今後の方向性を踏まえた上で、以下の欄に記入してください。					
実施内容	H30年度	自治基本条例の施行以降、市民との情報共有の重要性がさらに高まっており、今後もより効率的で見やすく、伝わりやすい広報活動に努める。広報紙は平成28年度同様、カラーページの拡充を継続する。 また、テレビ広報に関しては、新しい市の施策や周年記念などタイミングに合わせた番組作りを心掛けたいと考えている。また、広報モニターに若い世代の方に担っていただき多様な意見を抽出できるようにする。			
	H31年度	前年度の取り組みを継続的に実施するとともに、広報紙やテレビ広報等でのわかりやすい情報発信に努め、広報・広聴活動のさらなる充実を図る。			